

 **Softube**

ユーザーズマニュアル

Vintage Amp Room

ユーザーマニュアル バージョン 1.3.15

2013年1月10日版

Softube ユーザーマニュアル

© 2007–2013. Amp Roomは、Softube AB, Swedenの登録商標です。Softubeは、Softube AB, Swedenの登録商標です。Valley People Dyna-mite、Trident A-Range、Tonelux、Tiltへの視覚と聴覚へのリファレンスは、PMI Audioから書面による許諾を得て使用されている登録商標です。Tonelux、Tilt logo、Valley People、Dyna-miteに関連するロゴ、Trident、A-Range、Triangleのゴロはライセンスに基づいて使用されているPMI Audio Groupの商標です。Tube-Techは、Lydkraft ApS, Denmarkの登録商標です。すべての仕様は予告なく変更することがあります。無断複写、転載を禁じます。

その他の会社名、および本書に記載されている商品名は、各社の商標、及び登録商標です。他社製品に関する記載は、情報提供のみを目的としており、保証、推奨するものではありません。Softubeは、これら製品のパフォーマンス、または使用に関して一切の責任を負いません。

Softube 製品は、特許 SE526523、SE525332、関連する特許/特許 WO06054943、US11/667360、US20040258250、EP1492081、EP1815459、JP20041839761によって保護されています。

ユーザーへのソフトウェアへの権利は付属のソフトウェア使用許諾契約書(EULA)に準拠します。

免責事項

あらゆる努力は、このマニュアルに記載されている情報が正確であることを確認するために行われました。しかし、我々はミスを犯している可能性があり、我々も人間であるということをご理解いただけますと幸いです。ミスを発見した場合、我々にお知らせください。マニュアルの後のバージョンで修正します。

サポート

Softubeのウェブサイト上 (www.softube.com)では、よくある質問(FAQ)や、様々な他のトピックへの答えを見るけることができます。

サポート的な質問は、<http://www.softube.com> にポストしてください。

我々は出来るだけ速やかにご答えします。Web: www.softube.com

もくじ

1	ユーザーインターフェイス	5
	メニュー列	5
	キーコマンド	6

2	<i>Vintage Amp Room</i>	7
	イントロダクション	7
	ユーザーインターフェイス	8
	White Amp	10
	Brown Amp	11
	Green Amp	13
	アンプとキャビネットのバイパス	15
	推奨事項	15
	クレジット	15

1 ユーザーインターフェイス

Softubeプラグインは、“見たそのまま”の製品です。素早く、効率的に操作できるよう直感的に数分以内に使い方を覚えることができます。メニューのような Softubeのすべてのプラグインで同じような部分がありますが、それについてはこの章で説明します。プラグインの特定の詳細な情報に関しては、それぞれの章を参照してください。

メニュー列

プラグインインターフェイスの下部には、いくつかのボタンと細い黒い列があります。ここでは例として、Dyna-miteプラグインを使用しますが、他のプラグインでも同様です。



Enable 有効/プラグインをアクティブにします。offにするとバイパスします。

Setup プラグイン全体の設定を変更する場合にはグローバルオプションを使用します。

About Box “About”ボックスを開き、バージョン情報を表示します。

Value Display マウスがコントロールしているノブの値を表示します。

Enable

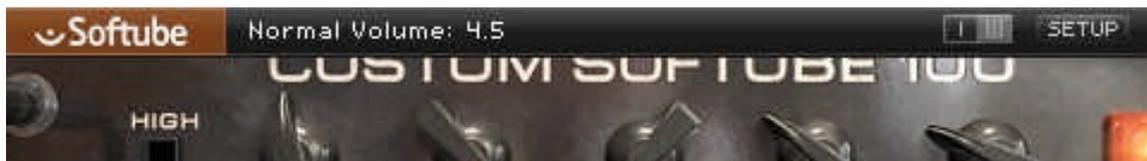
Enableスイッチがオンになっている場合 (i)、プラグインはアクティブになり、オーディオ処理がなされます。オフ (0)にするとバイパスされ、オーディオ処理されません。バイパス時のCPU消費率はかなり少なくなります。

“About”ボックス

バリューディスプレイ

Enable

セットアップ



セットアップ

セットアップウィンドウでは、プラグインの特定のインスタンスに影響を与える設定を行います。例えば、Bass Amp Roomで“Show Value Display”オプションの選択を解除した場合、プラグインは再びそのオプションを選択するまでシステム上のすべてのBass Amp Roomのパリユーディスプレイはオフになります。

WindowsとMacの間では、異なるオプションに変わっている場合があります。また異なるフォーマットやプラグインでも同様です。一般的なオプションは以下の通りです。:

Show Value Display: プラグインの下の列でパラメーターと値の表示を有効にします。

Reverse Mouse Wheel Direction: (Mac OS のみ) ノブの動きに合わせてマウスホイールの上下を変更することができます。(Mac OS のみ)

変更を有効にするには、ホストアプリ(DAW)を再起動する必要があります。

もし、何かを台無しにしてマニュアルでこのオプションを設定する必要がある場合は、下記の場所にテキスト形式でそれらを見つけることができます。:

Mac OS: ~/Library/Application Support/Softube

Windows: username¥Application Data¥

キーコマンド

プラグイン内のすべてのナンバーとラベルをクリックすることができます。これは簡単に希望する値を入力、設定することができます。ラベルの上にマウスを乗せると指差し型のポインターに変更されます。

マウス

Up/Down マウスホイール
ノブやスイッチのパラメーター変更方法を選択

キーボード

ファインアジャスト ⌘ (Mac) 、Ctrl (Win)
パラメーターの値を微調整する場合に使用

パラメーターのリセット
Altキーを押しながら、ノブやフェーダーをクリックするとデフォルト値にリセットされます。

プラグインの特定のキーコマンド

多くのプラグインでは、いくつかの追加機能を得るためにShiftスイッチを押しながらノブやスイッチをクリックします。

Metal Amp Room

Shift + クリックしながらマイクをドラッグすると両方のマイクを動かすことができます。

すべてのAmp Rooms

Shiftを押しながらキャビネット(またはアンプ)のバックグラウンドをクリックするとアニメーション無しで変更することが可能です。

2 Vintage Amp Room

イントロダクション

簡単でシンプルなVintage Amp Roomは、スピーカーキャビネットと柔軟なマイクポジショニングが可能なスタジオセットアップの偉大なギターアンプを3台エミュレートしています。それはライブパフォーマンスやレコーディングに使用するだけでなく、リアンプや土壇場での調整にも簡単に使用可能です。

Amp Room には他のシミュレーション・ソフトウェアで見られるような奇抜なサウンドのプリセットは含まれません。品質と精度にこだわり、時代を調節し正真正銘の生のサウンドと3つのアンプをシミュレートしています。ゴールは、自分のサウンドを作る究極のツールを提供することで、斬新なサウンドを提供することではありません。あなたがどんなサウンドを望むか、我々は分かっています。

製品の哲学

この製品はすべてが本物です。リアルでダイナミックなサウンドは、本物のスタジオでこれらのアンプのセットアップを持っているような効果を得られる絶対的なレプリカです。画面上に見えるのは、セットアップのような3Dレンダリングされたリアルな映像であり、プリセットポジション無く、遠方から背後まで最適な位置にマイクポジションを動かすことが可能です。

アイデアは、Amp Roomを使用すると、本当のスタジオでセットアップしているようにマイクがキャビネットの前であって、それをDAWに直接接続しているように動かすことが可能です。そしてその操作方法をシンプルにしました。Amp Roomは用途が不明瞭で直感的ではない機能を備えたノブやフェイクを作るようなエフェクトを持っていません。



我々は改ざんされたギターアンプのサウンドを提供していません。シンプルにツールを提供します。:3つの偉大なクラシックアンプをデジタルフォーマットで。欲しいサウンドを得るためにコンプレッサーや、イコライザー、リバーブ、または他のエフェクトを加えるのはユーザー次第です。

ようするに本物のスタジオでのセットアップを扱うのとこのソフトウェアをマスターするのと同じスキルを必要とします。コンピュータースキルではなく、音楽制作でベストを尽くすために耳を使用します。

スーパーノーマライズ

“スーパーノーマライズ”機能(我々のモデルビルディングツールボックスの魔法のコンポーネントのインターナル名)は、Amp Roomからの出力シグナルが常に妥当なボリュームであることを確認します。つまり、ユーザーの観点から、Amp Roomは決してクリップ(不要なデジタルディストーション)を起こしません。また、出力ボリュームはノーマライズされるのでAmp Roomのボリューム・ノブが、低いセッティングでも、デジタルレコーディングに適した出力レベルは相応のレベルにあります。本物のアンプと比較してみてください。これは簡単に100dBのダイナミクスを得ることができます。

技術的な観点からAmp room内のシグナルパスは、常に可能な限り最高のダイナミックレンジを持っており、途中でロスをする事が無いということの意味します。

ユーザーインターフェイス

シンプルさは、この製品の開発目標としてきました。;アンプとマイクは本物のスタジオでも同じように動作するはずですが、残念なことに17インチの液晶画面でマウスカーソルを使用して移動させ

ることは、居心地の良いスタジオで本物のマイクスタンドを動かすようにはいきません。それにも関わらず、我々は可能である限り、そのフィーリングを実現しようとしています。本物のスタジオでの経験を持っている場合、Amp Roomは、期待通りに聴こえることに気づくでしょう。

アンプパネル



ルームビュー



アンプパネル (トップエリア)

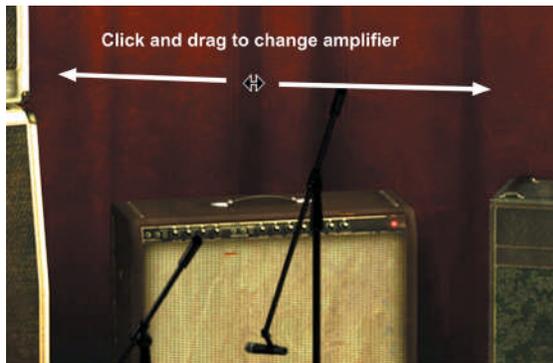
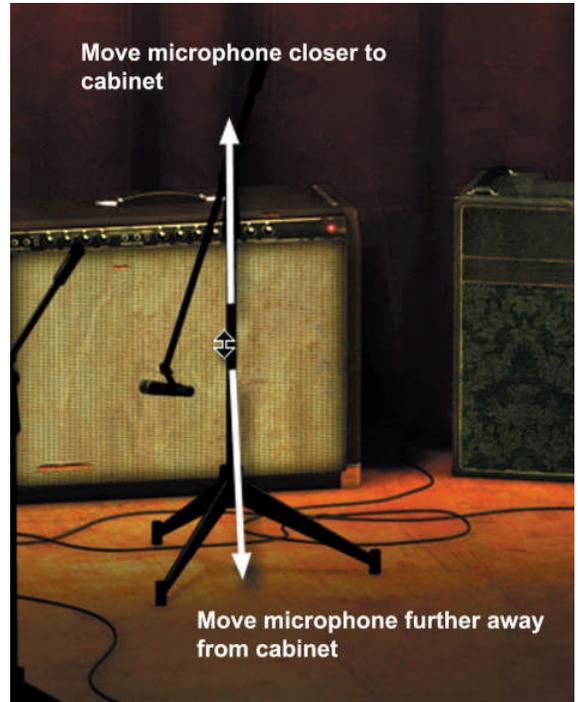
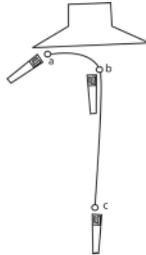
アンプパネルでは、ノブをクリックし、マウスを上下にドラッグすることでアンプの設定を変更可能です。スイッチはクリックする、またはクリック&ドラッグでマウスを上下に動かしてどちらかに切り替えることができます。

ルームビュー (ボトムエリア)

ルームビューでは、他のアンプアンプを選択、マイクの位置を変更という、2つの動作を行うことができます。

マイクポジション

マウスがマイクスタンドの位置にある場合、“上下矢印”ポインターに変化します。クリックし、マウスを上下にドラッグしてマイクスタンドの位置を変更、マイクは、所定の経路に沿って移動するので、ノブの変更と同じようにマウスを上下に移動させる必要があります。



アンプセクション

バックグラウンドをクリックして、左右にマウスをドラッグする事によってアンプを変更することができます。その際、アンプを変更することができることを示すように左右の矢印が表示されます。

ホワイト・アンプ — White Amp

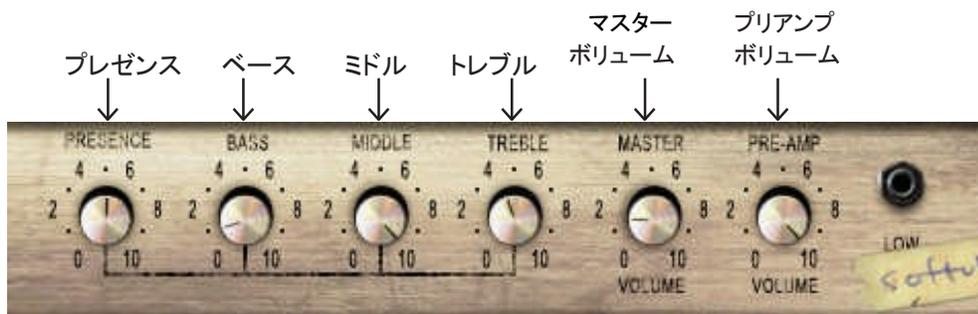
ホワイトは、クラシックの歪んだロックサウンドの業界標準オールラウンドの素晴らしいアンプです。操作性はとてシンプルです。必要最小限に絞られています。— オールチューブ、シングルチャンネル、リバーブ、その他のエフェクト無し。

サウンドは、鋭く叫ぶようなプリアンプシュレッドからウオームなプリアンプディストーションまで、特徴的に歪んで、エッジの効いた強力な轟音を必要なときに最適です。

使用方法

すべてのパラメーターを中央(12時)の位置に設定します。**マスター・ボリューム**を(10時くらいまで)少し下げ、**プリアンプ・ボリューム**を変化させながら、ギターを弾いてみてください。**プリアンプ・ボリューム**が低い場合は、ハイファイクリーン、(真ん中のボリュームでは)クランチーなディストーション、そして最後に最大の**プリアンプ・ボリューム**ではハイゲイン設定になります。さらに強烈な歪を得たい場合は、**ミドル**を下げ、**マスター・ボリューム**を上げてください。

キャビネットからマイクの位置を移動させるとかなり劇的にサウンドが変化します。特定の周波数は4つのスピーカードライバー間によって互いに打ち消しあうのが原因です。



ノブ

プラグインのフロントパネル上のノブの機能は、本物のアンプのフロントアンプと正確に再現しています。

プレゼンス プレゼンスは、パワーアンプのフィードバック・ループとトレブルの量をコントロールするために使用します。高域をブーストする場合に高い値を使用します。

ベース、ミドル トレブル

これらのノブは、アンプのトーンコントロールです。この回路は、**プリアンプ・ディストーション**の後に位置しており、**プリアンプ**のディストーション・サウンドを形成するために使用します。

マスター・ボリューム このノブは、パワーアンプの歪み量をコントロールします。パワーアンプの歪みは、プリアンプの歪みよりも少しダーティでなクランチサウンドが得られ、コードを弾く場合に最適です。プリアンプ・ボリュームを低い設定にし、典型的なパワーアンプ・ディストーションを得るためにマスター・ボリュームを最大に上げてください。

プリアンプ・ボリューム このノブは、プリアンプの歪み量をコントロールしますが、プリアンプが高出力でもパワー段も歪んでいるので、これはパワーアンプの歪みにも影響を与えます。プリアンプの歪みは、典型的にカリカリのパワーアンプの歪みよりはるかに“きつい”歪みになります。タイトなプリアンプ・ディストーションを得るには、**プリアンプ・ボリューム**を限界まで上げ、**マスター・ボリューム**を下げてコントロールします。

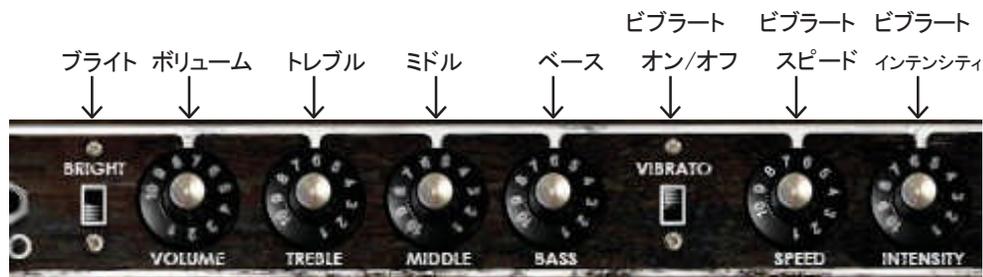
ブラウン・アンプ — Brown Amp

ブラウンは、音楽の歴史の中でも最も汎用性の高いクラシックアンプに基づいています。すべてのジャンルに対応可能で、クリーンで鮮明なだけでなくウォームで太く、パンチの効いたサウンドが得られます。

ブラウンは、クリーンなカントリースタイルのスチールギターサウンドからダーティなブルースギターサウンドまで幅広く対応可能です。また、ファンキーなリズムとメロウなエレクトリック・ピアノのコードにも向いています。強力な低音ときらびやかな高音で知られるウォームなサウンドを持っています。汎用性が高く、ヘビメタルを除くどんなサウンドにも対応できるでしょう。

使用方法

すべてのノブを中央(12時)の位置に設定します。マイクを遠い位置に設定します(マイクをクリックし、下方向ヘドラッグ)。**ピブラート**と**ブライツ**・スイッチをオンにします。ルーム・アンビエンスを含んだディストーションとクリーンの間のブルージーなサウンドが聴こえるはずです。ディストーション量の調節には**ボリューム**を使用し、低域を増やし、タイトなサウンドを得るにはマイクをキャビネットに近づけます。



ノブ

フロントパネルのノブの機能は、このプラグインには含まれていないスプリング・リバーブを除いて本物のアンプと同様です。また、本物のアンプではフットスイッチで切替える“ビブラート”スイッチを追加しました。すべてのトーンコントロールが“0”に設定されている場合の違いもあります。以下の“トレブル、ミドル、バス”を参照してください。

ボリューム このアンプは、マスター・ボリュームを持っておらず、1つのボリューム・ノブでプリアンプとパワーアンプ両方の歪みをコントロールします。

ブライツ 高域をブーストするには、このスイッチをオンにします。低い～中程度のボリューム設定でのみ機能します。

トレブル、ミドル、ベース

これらのノブは、アンプのトーンコントロールですが、歪みの量もコントロールします。例えば、低域で多くの歪みを持たせたい場合は**ベース**・ノブを上げてください（電気回路的に言えば、トーンコントロールは、プリアンプの歪みの前に配置されています）。

すべてのトーンコントロールが完全に反時計回りに設定されている場合を除いて本物と同じように動作します。このような場合、本物のアンプでは、ボリュームを絞っているように無音になります。多くの理由でこの“特徴”に必要を感じなかったのでトーンコントロールを完全に反時計回りに回した場合、本物のアンプではほんの少し上げた状態と一致しています。

ビブラート、スピードとインテンシティ

ビブラート・スイッチをオンにしてビブラート（実際にはトレモロ）を有効にします。トレモロ効果の量をコントロールするには**インテンシティ**、速度をコントロールするには**スピード**を使用します。

グリーンアンプ — Green Amp

グリーンは、心地の良く、キャラクターの立ったギターサウンドが詰め込まれ、暖かみを残した激しいパワーアンプ・ディストーションを実現します。他の楽器をかき消すこと無く、エッジの効いたサウンドをミックス内でも輝かせます。

グリーンは、60年代半ばの有名なブリットポップアンプをベースとしています。2つの入力と3つの異なるチャンネル(“Vib Trem”、“Normal”、“Brilliant”)があり、通常ギターは“Vib Trem”チャンネルに接続します。そして他の(2チャンネルにシグナルをパッチします。我々はこのように正確にアンプをシミュレートしました。; ギターは、“Vib Trem”インプットに接続し、他の2チャンネルにパッチ。

さらに難しくするために通常のEQではなく、(人が音色調節に期待するものとは異なり)時計回りに回すと高域を減衰させるシングルトーンコントロールを備えています。

オリジナルのアンプの前の所有者が覚えておくように金属パネルに“H”と“LO”と示しており、とても親切です。

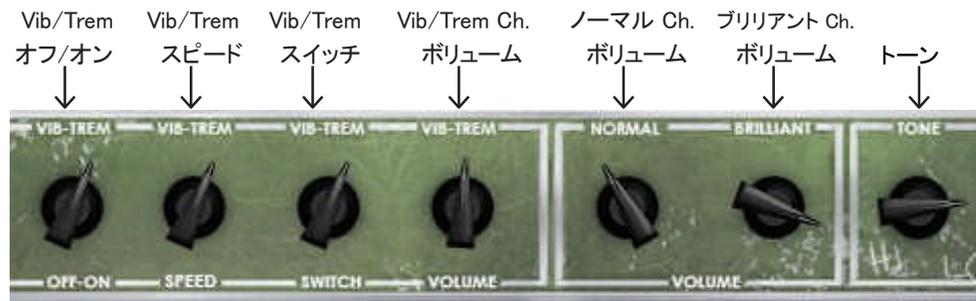
我々はもちろんこの特徴をAmp Roomにも採用しました。

使用方法

ビブレード/トレモロ・エフェクト(Vib-Trem オフ/オン)をオンにし、Vib-Trem スイッチでトレモロを選択します。

Vib-Trem ボリューム・ノブを中央の位置に、他のノブを最小値に設定します。

トレモロ・エフェクトとクリーンなサウンドのバランスを得るためにブリリアント・ボリューム・ノブを使用して調整します。



ノブ

プラグインのフロントパネル上のノブの機能は、正確に本物のアンプのフロントパネルと一致しています。また、本物のアンプではフットスイッチで切替える“Vib-Trem オフ/オン”スイッチを追加しました。

Vib-Trem オフ/オン このスイッチを時計周りに回すことでビブラート/トレモロ・エフェクトをオンにします。

Vib-Trem スピード ビブラートやトレモロのスピードを3ウェイスイッチで段階的に設定します。

Vib-Tremスイッチ ビブラートとトレモロ・エフェクトを切替えます。ブラウン・アンプのメーカーと異なり、このアンプは、トレモロ・エフェクト(シグナルのアンプモジュレーション)とビブラート(シグナルの周波数モジュレーション)の違いを表現します。このビブラート・エフェクトは、実世界のビブラート(オペラ歌手のようなビブラート)のような音はしませんが、特別なタッチを表現する素敵なエフェクトです。

Vib-Trem ボリューム Vib-Trem チャンネルのボリューム・コントロール。このチャンネルは、基本的にプリアンプ・ディストーションを持つ、3つのチャンネルの1つにすぎません。

ノーマル・ボリューム ノーマル・チャンネルのボリューム・コントロール。高い音量設定でのファズのようなパワーアンプ・ディストーションを除けば、このチャンネルは非常にクリーンで、ギターのサウンドをそんなに変えることはありません。

ブリリアント・ボリューム ブリリアント・チャンネルのボリューム・コントロール。ノーマル・チャンネルよりもはるかに明るいサウンドを持っています。

トーン トーン・ノブを時計回りに回すと高域をカットします。

ディストーションを必要とする場合、**Vib-Trem** ボリュームを使用し、高域、低域のように**ノーマル**、**ブリリアント**・ボリュームを使用します。より多くのファズのような歪みが必要な場合、**ノーマル**と**ブリリアント**・チャンネルのみを使用します。

アンプ、キャビネットのバイパス

右下隅にある小さなボックスでアンプ・バイパス、キャビネット・バイパスを選択することが可能です。



外部スピーカー（またはスピーカー・プラグイン）で Vintage Amp Roomを使用する場合やアンプからのラインアウトからインプットしてレコーディングを行う際のスピーカーシミュレーションとして使用したい場合、このスイッチを使用します。

キャビネットをバイパスすると他のアンプルーム・プラグインのキャビネットを使用することができます。例えば、Vintage Amp Roomのキャビネットバイパスの後にBass Amp Roomのアンプ・バイパスを接続するようなことが可能です。

推奨事項

アンプルームからのサウンドが好きで、本物を使用してそのサウンドを録音したい場合でもここにいくつかの推薦文があります（実際のところ、本物のアンプは、常にプラグインよりもセクシーです）。

ホワイト - White

ホワイト・アンプのサウンドがお好きな場合、Marshall JCM800 2203と1960A 4x12"キャビネットをご購入することをお勧めします。100ワットのチューブアンプからの轟音に勝るものはありません。

ブラウン - Brown

ブラウン・アンプがお気に入りであれば、1966年のFender Twin Reverb コンボをお勧めします。

グリーン - Green

本物に勝るものはありません。その特徴的なビブラートは、60年代半ばの Vox AC30/6 によるものです。そしてスピーカーは、おそらく新しいセレクションのブルードライバーのペアが適しています。

ルーム - Room

最後に我々がキャビネットをキャプチャリングしたルームがお好きであれば、*Linköping*の *Soulmine* スタジオに予約を入れてください。そして、彼らに *Softube* と時と同じ準備をするように伝えてください。

MARSHALL は、MARSHALL AMPLIFICATION PLCの登録商標です。FENDER ISは、FENDER MUSICAL INSTRUMENTS CORPORATIONの登録商標です。VOXIは、KORG (UK) LIMITEDの登録商標です。CELESTIONは、KH TECHNOLOGY CORPORATIONの登録商標です。

クレジット

Oscar Öberg - コンセプト、プリアンプ・モデリング、サウンド、DSPプログラミング
 Niklas Odelholm - キャビネット、マイクロフォン・モデリング、サウンドデザイン
 Arvid Rosén - パワーアンプ・モデリング、サウンド・プログラミング
 Torsten Gatu - インターフェイス、DSPプログラミング
 Per Connman - アンプ・セレクション、モデリング
 Anders - グラフィック・プログラミング
 Ulf Ekelöf - グラフィック・プログラミング、3Dレンダリング
 Micko - 3Dレンダリング
 Papa Bear - コラージュ、グラフィック・プロファイリング

